新型コロナウイルス感染症について

呼吸器内科　松澤 康雄

佐倉市ほか、病院の周辺では、新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）は、減少してきています。皆さまの感染予防の努力と、医師会や行政による積極的なワクチン接種のためと考えます。以下、よく質問をうける事を中心に、コロナ対策の要点を記載します。

1）コロナウイルスの怖さ

インフルエンザとは全く違います。致死率は男性の場合、70代で7％、80代で17％です。佐倉市内でも、当院でも多くの方が亡くなりました。変異株では、若い方の死亡例も増加しています。甘く見ないことです。

2）感染予防の要点

感染しても無症状の場合（時期）があるため、症状のある人、検査が陽性になった人だけに気を付けても感染拡大は防げません。感染予防に最も重要なことは、症状のない人もふくめて、皆がマスクをすることです。布やウレタン製のマスクは効果が不十分で、特に病院内では、不織布（ふしょくふ）のマスク（今は、どこのコンビニでも売っています。）をお勧めします。「ソーシャルディスタンス」「３密回避」「適切な換気」は、特に、食事など、マスクをできない時に、重要です。「３密」が防げない場合は、滞在時間、接触時間を短くすることで危険性を減らせます。

3）コロナワクチン（ファイザー、モデルナのものを念頭に）

画期的な仕組みのワクチンで、100年前のペニシリンの発見以来の、人類を救う大発明だと私は思います。高い効果に比べれば、危険性もわずかです。副反応は一定の頻度で生じますし、百万、千万の方がワクチンを受ければ、偶然のできごともふくめて、ワクチン後に急変した、という方もでてきます。ごく一部は、本当にワクチンのためかもしれません。

しかし、病気にかかった場合の個人のリスク、家族や周囲へ感染を広げるリスク、さらには、このまま流行がおさまらない場合の社会全体への悪影響、なども考え、自分のためのみならず、家族のため、社会のためにも、できるだけ多くの方がワクチンを受けることを願います。

4）ワクチン接種の可否

持病や、使用している薬のためにワクチンが打てない、という事は、ほとんどありません。持病のある方こそ、受けてもらいたいと考えます。

以上です。

さらに詳細は、呼吸器内科ホームページを参照してください。

外来受診のご案内

- **開扉時間**　8：10
- **受付時間**　初診 8：30～11：00　再診 8：30～11：00
  ※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- **休 診 日**　日曜日・祝祭日・第3土曜／創立記念日（6月10日）
  年末年始（12月29日～1月3日）
- **代表電話番号**　043-462-8811
  予約変更専用　043-462-0489（平日14時～16時）
- **健康保険証（原本）、その他の公費負担受給者証（原本）を必ずご持参下さい。**
- **各科外来担当医はホームページ**
  http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp　**をご覧ください。**

お見舞いについて

- **面会時間**
  （制限中）

平　　日	15:00～19:00
土･日･祝日 創立記念日 年 末 年 始	11:00～19:00 （2階西病棟13:00～19:00）

防災センターで面会手続きの上、お見舞いカードを装着してお入り下さい。

時間内での面会が無理な場合は看護師にご相談下さい。状況に応じ時間外面会許可証を発行いたします。

― 編集後記 ―

今年もマスクでの夏がやってきます。昨年は先行きの不安で気分も晴れずマスクの暑苦しさが辛い夏でしたが、ワクチン接種が始まった今年は昨年より景色が輝いて見えます。

まだまだマスクの着用は続きそうですが、気持ちは前向きに過ごしたいと思っています。

（総務課　山下）

編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院　広報委員会
〒285-8741　佐倉市下志津564-1
TEL.043-462-8811（代表）
発　行　日：2021年7月【年4回（1･4･7･10月）発行】
U　R　L：http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp

Toho University Sakura Medical Center

SAKURA DAYORI さくらだより

～患者さんと病院を結ぶ情報誌～

VOL.47　SUMMER　2021
東邦大学医療センター佐倉病院

基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

病院長就任にあたって

東邦大学医療センター佐倉病院　病院長　吉田 友英

2021年7月より東邦大学医療センター佐倉病院病院長に就任いたしました。私は、長尾前病院長時代には医療連携・患者支援センター長として、地域医療機関との連携強化・患者さんへの支援に携わってきました。これまで皆様から頂いたご理解やご協力に感謝いたします。当院は、2021年9月2日で開院30周年を迎えますが、この大きな節目の年に今までの成果をもとに更に飛躍をするように、邁進してまいります。

この1年強の間、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）に翻弄されてきましたが、当初よりは知見も増え、やみくもに不安を煽るようなこともなくなり、落ち着いて医療ができるようになってきました。ワクチン接種もようやく軌道にのり、東京オリンピック・パラリンピック開幕も現実のものとなってきましたが、未だ予断を許さない状況であると認識しています。COVID-19は災害の一つと考えており、地域災害拠点病院である当院は今後も感染症という自然災害に対して手を緩めることなく立ち向かっていきたいと考えています。同時に地域支援病院として医療崩壊を防ぐために救急を含めた一般診療を始めとした、高度急性期医療を守ることも当院にとって非常に重要な課題と考えています。

HCU（High Care Unit：高度治療室）の新設、手術室の2室増室を行い、手術をお待たせしていた患者さんを減らし、一人でも多くの患者さんを診療できるように計画しています。

診療業務に加えて、次世代の医療人を育てることは大学病院である当院にとって重要な側面です。東邦大学の付属病院として医学部、薬学部、看護系学部、理学部の教育を担っていますので、今後ともご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

私たちの使命であります地域に貢献する病院となるためには、【人】を大切にすることが最も重要と思います。【人】である当院教職員が一丸となれるように働きやすい、働きがいのある職場を作り、皆様に安心してかかっていただける病院を目指します。そして、チーム医療の中心は患者さんご自身ですので、一緒に医療に参加していただけるようにご協力のほどお願いいたします。

東邦大学の建学の精神であります『自然・生命・人間』を礎に、大きな飛躍に向けて3年間精一杯頑張りたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の収束に向けて

感染対策室　長島 誠

長島 誠 臨床教授

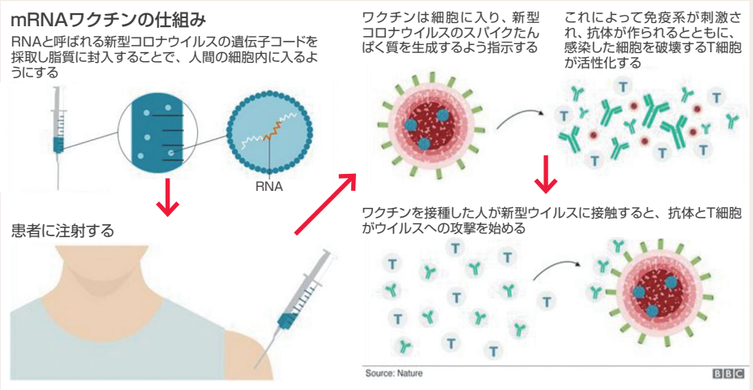
2021年4月1日付で感染対策室臨床教授として勤務することとなりました。2012年に感染対策室が設置され、室長に就任いたしました。2019年12月に中国湖北省武漢市に端を発した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、まだまだ収束しない状況が続いています。世界中で1億7千万人以上の方が罹患し、約370万人の方が亡くなられました。20世紀以降では、スペイン風邪の次に大きなパンデミック（世界的大流行）です。

そのような中、当院も2020年4月以降、COVID-19患者の入院、発熱・肺炎患者の救急搬送に対応してきました。全身麻酔患者は術前に全例でSARS-CoV-2遺伝子検査を実施し、院内感染を制御し安全に手術治療を行っています。濃厚接触者等に対するスクリーニングはドライブスルー方式を導入しました。地域でクラスターが発生した老人介護施設、障害者支援施設への現場介入、入所者の健康観察も担当しています。

COVID-19と診断された人のうち、重症化しやすいのは高齢者と基礎疾患のある方です。重症化リスクとなる基礎疾患等には、慢性閉塞性肺疾患、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血血管疾患、肥満、喫煙があります。

現在、医療従事者等と高齢者へ新型コロナワクチンの接種が進んでいます。日本ではファイザー社と武田／モデルナ社のワクチンが、予防接種法における接種の対象になっています。ワクチンの発症予防効果はファイザー社が約95%、武田／モデルナ社が約94%と高い効果が確認されています。一方で、新型コロナウイルスの新たな変異株が世界各地で確認されており、さらに警戒を強めていく必要があります。

COVID-19の収束には、ワクチンの接種や自然感染による集団免疫の獲得が必須ですが、変異株やワクチンの効果の持続期間等の懸念材料もあり、もう少し推移を見守る必要がありそうです。3密（密集、密接、密閉）の回避、マスクの着用、手指消毒など、個人の基本的な感染予防策が極めて重要です。地域社会を守り、医療崩壊を防ぐために、今しばらくは我慢の時が続きますが、ご協力をお願い致します。



呼吸器外科の紹介

呼吸器外科　佐野 厚

東邦大学医療センター佐倉病院呼吸器外科では肺がん・気胸を中心として、肺・縦隔・胸腔・胸壁の手術を担当しています。現在は准教授の佐野が呼吸器外科の責任者となり、長島誠医師（感染対策室長・臨床教授）と平沼彩子医師とで診療を行っています。

呼吸器外科で最も多く扱う手術は肺がんです。転移のない肺がんでは手術が治療の中心となります。当院でも肺がんの手術を安全・快適に受けてもらえるよう、手術や術後の鎮痛薬などさまざまな工夫を行っています。

肺がんは当初は症状がないことがほとんどです。病変が大きくなったり転移を起こしたりすると、咳・血の混じった痰・痛みなどの症状を起こします。症状が出てきた場合には手術では治せないことも多いです。肺がんを手術で治すには症状のないうちに発見することが重要です。そのために症状がなくても肺がん検診や人間ドックで検査を行って、早期に肺がんを見つける必要があります。

2020年からの新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、肺がん検診や人間ドックを受ける人が減っているのではないかと危惧しています。2020年は検診で発見されて当院で肺がんの手術を受けた方が2019年と比べて減りました。感染症を怖がるあまり、検診を受けなくなってはいないでしょうか。感染症が蔓延しても肺がんにかかる人は減らないはずです。検診で肺がんが発見されないと、症状の出た進行した状態で肺がんが見つかり、手術で治すことが期待できなくなります。こういう時期でも肺がん検診・人間ドックは是非とも受けてもらいたいと思います。

新型コロナウイルス感染症が流行っている時期に手術を受けて大丈夫かということをよく聞かれます。当院では長島感染対策室長が手術前のPCR検査など手術を受ける方の感染症対策のシステムを構築し、新型コロナウイルス感染症蔓延下でも安全に手術を受けられるようにしています。

今後とも東邦大学医療センター佐倉病院呼吸器外科をよろしくお願いします。

佐野（左）と長島臨床教授（右）

佐倉病院公開講座のお知らせ

WEB開催　**地域で考えるケアと治療「てんかんは怖くない」**

開催日時：2021年7月31日（土）午後2時～3時30分
ご視聴には事前登録が必要です。院内掲示や当院ホームページをご確認下さい。
事前登録用URL：https://forms.office.com/r/A87Y22F8Rb

新型コロナウイルス感染症のため公開講座の院内開催は中止しております。再開時にはホームページなどでお知らせ致します。

感染症対策への取り組み

未だに多くの新規感染者が報告され、**リバウンドの繰り返しや変異株の拡大は必至**です。ワクチン接種が始まっていますが、まだ時間がかかりますし、接種後も対策が必要です。通常の診療・治療も維持しなければなりませんので、皆様のご協力が必要不可欠です。

- 院内すべての方にマスク着用および手指消毒の徹底をお願いしております。
- 随時体温測定などをおこない、体調の管理・感染予防に努めております。
- 感染症対策のために入院患者さんへの面会を制限しております。

ストレスフルな日々が続いておりますが、引き続き「新しい生活様式」の実践と、感染対策・予防に努めてくださいますようお願い申し上げます。

2021年度診療体制変更（祝日・土曜）について

以下の祝日は平日診療体制、土曜日は休診とさせていただきます。

祝　日	土　曜
7月22日（木）	7月 3日（土）
8月 9日（月）	8月 7日（土）
9月20日（月）	9月 4日（土）
11月23日（火）	11月 6日（土）
平日診療体制	**休　診**
※平日同様に外来・手術等をしております。	※救急のご依頼はお問い合わせください。

マンモグラフィ装置「AMULET Innovality」導入

中央放射線部　山田 夏穂

乳がんの罹患率は年々増加傾向にあり、現在女性が罹患するがんの中で最も多いとされていますが、女性のがんによる死亡の中では全体の5番目となっています。これは他のがんに比べ画像検査等で早期発見がしやすく、治療が効果的にできることを示しています。乳がんは早期発見できれば治療の選択肢が増えます。

適切なタイミングに適切な検査を行うことで、早期発見の確率を高めることができます。乳がん検診は、一般的に40歳以上の女性に推奨されています。その理由は、日本では40歳以上で乳がんの発生率が上昇することと、40歳未満の女性は乳腺が発達していて、マンモグラフィでは乳腺とがん組織の区別がしづらいためです。

東邦大学医療センター佐倉病院では、2020年9月より新しいマンモグラフィ装置「AMULET Innovality」を導入しました。AMULET Innovalityは、従来型と比較して高精細画像かつ立体構造が見やすい画像を提供できる装置になっています。被ばく線量も従来比約30%減となっており、撮影線量の大幅な低減によって、患者さんにより“やさしい”検査となりました。この最新の装置を用いることで、乳房内における乳腺位置を解析し、より最適な線質・線量での検査となり、「高画質」と「低線量」をハイレベルで両立することが可能となりました。

また、マンモグラフィを撮影する際は乳房を圧迫するため、どうしても多少の痛みを伴います。その痛みを軽減する目的で、通常の乳房圧迫完了後に乳房の厚みが変化しない範囲で圧迫圧の減圧機能も加わりました。これにより従来の装置よりも身体的負担も少し和らげてくれます。

当院には現在マンモグラフィの認定資格を取得した放射線技師が4人おり、マンモグラフィは女性技師が検査を行っています。より質の高い画像を提供できますように、今後も研鑽に励み、先端医療、地域医療に貢献して参りたいと思っております。

さくらだより　vol.47　Summer 2021